

アイドル「解散」で可視化される論理と感情

—ネットニュースの計量テキスト分析から—

中部大学 田川隆博

1 目的

2000年代に入って、非常に多くのアイドルが誕生し、いまでも誕生し続けている。その一方で、解散、全員卒業、活動休止といったニュースもまた多くなっている。本研究では、アイドルの「解散」に焦点をあて、その「解散」は音楽ニュースサイトでどう伝えられたかを計量テキスト分析によって明らかにしようとするものである。

本研究が問うのは、「解散」が語りを生むこと、そしてその言説空間の内に、アイドルとファンをつなぐ論理や感情が表出されるのではないかという点である。「解散」は解散LIVEを伴うことが多く、そこでアイドルからファンに向けて最後の言葉が語られる。その最後の言葉をどう選ぶか、何を話すかというのはアイドルにとって活動を終える上で重要な儀式になると思われる。つまり、アイドルとファンをつなぐ論理や感情が析出しやすい場だと考えられる。

2 方法

今回は多数ある音楽ニュースサイトの内、音楽ナタリーを選んで記事を収集した。音楽ナタリーは、ライブレポートに特徴があるサイトだが、アイドルの解散LIVEについては、近年よく取り上げて記事にしている。実際に現地でLIVEを体験し、記者の視点でレポートするとともに、アイドルが実際に語った内容も大きく引用している。

計量テキスト分析にはKHCoderを使用した。計量テキスト分析によって、個別の解散理由に立ち入ること無く、計量的に分析できる。それによって、むしろ「解散」に伴ってどういう言説が立ち現れるのか、そこにどういう論理や感情が表出されるのかを分析することができる。

3 結果

月、年という日付を表す言葉を除けば、ライブ、活動、メンバー、解散、発表というのが上位に来ており、アイドル活動や解散を表す言葉が多く使われる。

「本当に」という副詞が上位に来ている。「本当に」については、どんな言葉とともに語られるのか、共起ネットワークでさらに分析を行う。

また「ありがとう」「感謝」という言葉も上位に来ていることから、こうした感謝を表す言葉が多くのアイドルの気持ちとして表現されていると言って良いだろう。

解散はファンに直接言葉を伝える最後の機会だが、「別れる」という動詞、あるいは「さようなら」や「バイバイ」と言った別れのあいさつの言葉が上位に来ない。別れの言葉の代わりにファンに対して発せられるのは、ありがとうである。「本当の気持ち」であり、「ふさわしい」言葉として選ばれたと言えるだろう。

4 結論

多くのアイドルが「解散」で「本当に」という強める言葉を語るということは、「解散」の場が、アイドルの「本音」を語る儀礼的空間になっていると言えるのではないか。言い換えれば、「解散」の場では「本当の気持ち」を伝えるべきであり、実際に「本当の気持ち」を伝えようとしているのではないだろうか。そして、その気持ちはファンへの「感謝」という形で表出されることが多い。